



一人にさせない、ともに支える社会へ

厚生労働省の調査(令和6年)によると、高齢者の単身世帯は903万世帯と過去最多を記録したとのこと。孤立死といった深刻な問題も発生しており、警察庁の統計(令和6年調査)では自宅においてひとり暮らしで亡くなられた方は全国で約7万6千人。そのうち65歳以上の高齢者が約5万8千人と8割近くを占めています。

本市も例外ではなく、ひとり暮らしの高齢者は、10年前の平成27年は3,547人であったのに対し、令和7年は5,363人。実に51%も増えています。残念ながら高齢者の孤立死も本市で毎年数件発生しており、今後においても発生リスクが高まることが懸念されます。

本市では、こうした課題を見据え、市内のコンビニエンスストアや新聞販売店などとも連携を図りながら、高齢者の日常の様子や体調変化といった細かい気づきを市に情報提供していただき必要な支援につなぐ「ホッとあんしん見守りネットワーク」や、住居内で急病などの緊急事態発生時にボタンを押すだけで自動的に消防署へ通報さ

れ、直ちに救急などの活動を行う「緊急通報システム装置」の貸与など、ひとり暮らしの高齢者やその家族が安心して暮らすことができる環境を整えています。

さらに、今年度は新たに人感センサーや電球の消灯点灯で人の動きを検知し、その情報を離れて暮らす家族などに通知するといった、ICTを活用した民間の見守りサービスの利用を後押しする「高齢者見守りサービス導入の助成」を実施します。市内在住で65歳以上のひとり暮らしの方が対象で、最大15,000円の補助が受けられます。ぜひ長寿応援課までお問い合わせいただければと思います。

これらの取組に加えて、高齢者の社会的孤立を防ぐためには、「顔の見える地域のつながり」を作ることが大切です。町内会への加入もその方法の1つです。近所の方との関係を築くことで、困ったときに「助けて」と言える関係性が生まれ、定期的な集まりや活動を通じて自然と見守り合える「共助」のネットワークにつながっていきます。市内には38の町内会があり、夏祭りや盆踊り、防犯パトロールなど、魅力ある活動も展開されています。また、民生委員・児童委員の皆さんは身近な相談相手として住民の立場に立った見守り活動を展開しています。

地域の絆づくりは、災害時の助け合いや子育て支援など、自分自身の安心につながります。高齢化が進み、地域コミュニティが希薄化する中、近所の皆さんが互いに協力し合い、助け合う「共助」の輪は、これまで以上にその重要性が高まっています。地域での小さなつながりを大切にすることが、誰もが安心して暮らすことができるまちづくりへの第一歩です。